

もと
元マラソンランナー

まつの あけみ
松野 明美さん 48



次男 ゆっくりでも成長

2003年に生まれた次男の健太郎はダウン症で、重い心臓病もあり、生きるか死ぬかの状況を乗り越えてきました。陽気ですが、知的障害があり、成長がとても緩やかです。特別支援学校の中学生になっ

た今も書けるのはひらがなで、数字はあまり理解できません。運動もゆっくりで、入浴は夫が手伝います。かむ力が弱く、食べ物は細かくしてあげます。私はマラソンという勝負の世界にいたので、結婚しても、

長男を産んでも、競争心を持つて生きてきました。だから、健太郎の障害は自分のイメージと合わず、隠そうとした時期がありました。転機は、健太郎が4歳の時です。児童デイサービス事業所で、

あきらめずに根気強く教えれば、身の回りのことができるようになるかと学んだのです。「おかえり」と言えば、「た、だ、い、ま」と答えられるようになる。ゆっくりでも成長なんです。障害に対する受け止め方が変わったことを伝えたくて、「いちばんじゃなくて、いいんだね。」という本も書きました。健太郎と接すると、子どもたちも優しくなるようです。特別支援学級に通っていた小学校では、「健太郎君は僕たちのドレーカーだよ」と言ってくれました。障害がある子もいない子ども友達になって一緒に成長し、理解し合えれば、共存が当たり前という優しい社会になるんじゃないかなと思います。(聞き手・八木陽介)